

# 「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和5年10月6日(金) NO14 文責 <sup>きした</sup>木下 <sup>ふみあき</sup>文秋

## 部活動の地域移行

10月4日付の宮日新聞に部活動の地域移行に関する記事がありました。「公立中学校の教員が指導を担っている部活動を、地域クラブや民間事業者に委託する改革。少子化で部活動を従来の体制で維持するのが困難になっている現状を踏まえ、教員の負担軽減も図る。指導者の確保、保護者の経済的な負担増などが課題とされる」と説明書きがされています。詳しいことが伝わらず「部活動の地域移行」という言葉だけがひとり歩きをしている感が否めません。今のところ、現場には何の情報もなく、本当に地域移行が進むのか疑心暗鬼に陥ります。部活動の現状を紹介すると、まずは少子化の影響を大きく受けています。例えば、昔は部活動の花形であった野球部に関して言えば、秋の中体連は市内15チームのうち部員9名ちょうどのチームが3つもあります。サッカーもソフトボールも合同チームが最近では珍しくありません。入学する学校にやりたい部活動がない、人が足りないという現実には直面しています。さらに、教員の働き方が問題となっていて、月の残業時間を80時間以内にする（目指すは45時間）となっていますが、本校に限らず多くの教員の残業時間は部活動指導もあって、80時間を大きく超えています。国は、2025年までの3年間を改革推進期間として地域の実情に応じて早期に進めることとしていますが、先述のとおり具体案は示されていません。地域に部活動の指導ができる人材がいるのか。地域のスポーツクラブに指導のノウハウがあるのか等不透明です。また、保護者にとっても「部費に代わる指導費はどの程度なのか」「テスト休みなどは誰が決めるのか」「休みは確保されるのか」「事故の対応は大丈夫か」など不安はあると思われます。部活動は生徒にとって大変意義があり、技術の習得だけではなく、礼儀、マナー、連帯感などを習得できる場として永年に渡り教育的価値を発揮してきました。しかし、平日はともかく土日の活動は、家庭や個人の時間を割くために、負担が大きいことは事実です。特に専門的な指導ができる先生はまだしも、異動するごとにやることがない部活動の指導を任される先生は、とても苦勞していると思います。今後詳細について説明があれば適宜皆様にも周知を図ります。部活動は勝利至上主義から離れ、あくまでも中学生にとって「健全な心身の育成と人格の形成」を目指すものであることに変わりはありません。